

## 楊 夢 (ヨウ ユメ)

中国出身

日本女子大学 家政学研究科児童学専攻 修士課程

### 初夏とオリンピック

梅雨に入った。連日、小雨が続いて、空はずっと暗くて曇っていた。こんな日射もなく湿度が高い日々は、洗い物はなかなか干せなく、心も少し憂鬱になっていた。私の実家は中国の北の方で、晴の日も曇の日もはっきりで、雨も激しいほうが多い。東京に来て、梅雨という曖昧不明な天気を初めて知った。窓から外の曇り空を見て、2年ほど前、私はまだ日本語学校にいた時のことを思い出した。

それは2019年の初夏、ちょうど梅雨の時期だった。日本語学校の授業は午前中で、午後はアルバイトをしていた。親の経済負担を少しでも減らせたらと思い、友達からの誘いを受け、彼女が働いているところに行き一緒にアルバイトをしていた。そこは、オリンピックのグッズを販売しているお店で、私の初めての印象は、店頭で大きなマスコットキャラクターのぬいぐるみが置かれて、かわいいお店だった。私は最初に、オリンピックやスポーツにあまり詳しくなく、日本語の能力も今より大分低かった。しかし、ここでのアルバイトで、少しずつ、運動の知識もオリンピックも、そして人とのコミュニケーションも学んできた。働いているとき、欧米の旅行者、お土産を買って来た留学生、日本人のオリンピックファン、孫へのプレゼントのために来たおじいさんおばあさん、たくさんのお客さんが来た。私はお店のスタッフなのに、

オリンピックについては1から学んでいるので、逆にお客さんにいろいろ教えてもらった。その時から、スポーツに興味を生じ、オリンピックの開催にもわくわく期待し始めた。

その後3か月後、私は学業が忙しくなって専念したいと考えたのでアルバイトをやめたが、オリンピックへの関心はずっと心にある。大学院に入ってから、時間があればボランティアに行こうかな、チケットの入手が難しいけれど、せめて聖火リレーでも見に行こうかな、という想像しながら、新学期を迎えた。しかし、新学期の初めから、新型コロナウイルスが広がり、毎日毎日患者が増えて、街に歩いている人たちは、全員マスク姿になった。私は感染を怖がって、何週間家に引きこもったことがある。そのうちに、状況が大きく変わり、日本での出入国が難しくなり、国と国の間の交通はほとんど止まっていた。もちろん、私も帰省は不可能になり、期待しているオリンピックも延期になって、一時、すごく寂しくなった。その後、全世界でコロナの状況は続き、なかなか改善されなかった。住んでいる東京も、緊急事態宣言が何回か出されて、これからどうなるだろう、この状況が長く続いていくと、オリンピックは中止になってしまうのだろうか、私はずっと心配しているままに2021年に入った。今年の春から、オリンピックの準備が再開し、聖火リレーも始まった。もちろん期待はあるが、あまり実感できなくて、どうなるかなと困惑してい

る。オリンピックは全世界の大会で、もちろんいろいろな国から運動選手や旅行客がくるだろう。しかし、国にそれぞれ状況が違って、国々の人がここに集まって、密集になって、感染のリスクはさらに上がったらどうするか、選手やスタッフなどが感染してしまい、ゲームがうまく進まなかったらどうするかと、つい心配でたまらない私は、初夏の天気を見て、思っていた。

この世界の中に一番重要な運動大会に、心配もしながら、盛夏がくる日を期待している。

以上